

名城大学附属高等学校 ゲーム感覚で5S・5Mのスキル獲得までの実績を溜めるポートフォリオ開発（愛知県）

実施体制の概要

- 全校生徒数：約2,009名
（うちSGHは約91名を主とする）
- SGH対象学科：
国際クラスを主とし、一般進学クラス1年及び、一般進学クラス2、3年文系も対象に含む
- HP：<http://www.meijo-h.ed.jp/>
（SGHの取組はこちら
<http://www.meijo-h.ed.jp/super/sgh/>）
- SGH委託費用総額：約4,721万円
（H26：1,496万円、H27-H30 740万円～880万円/年で推移）
- 校内の体制：SGH実行委員会による立案・企画の下で、校務分掌としての開発部（SSHとSGHを所掌）を実行の推進母体とする。実行は分掌部員でもある国際クラス担任団やグローバル教科担当者が中心
管理職は、2名の教頭のうち、SGH担当の教頭も配置
- 国内連携機関：名城大学、名古屋大学、JICA中部、愛知県中小企業家同友会等と連携
その他、愛知県周辺の高校とも課題探究の成果やノウハウ等を共有できる機会を設定
- 連絡先 haneishiy@meijo-h.ed.jp
☎ 052-481-7436

何を目指したか

- 身の回りの多様性の理解から始める、
摩擦・失敗を乗り越え、協働できるグローバルシズンの育成

ツールのポイント

- 1 マイルを貯めるゲーム感覚を用いて「楽しみながら」メタ認知を進め、経験から自信、自信から更なる意欲を生み出すサイクルに着目
- 2 生徒には、社会の一員として校外でも活動する主体性を高めてほしい。しかし、校外の活動を教員が完全には把握しきれないという問題意識も

SGH事業実施に必要な資源

- 人員** ■追加の専任教員は雇用せず、教育開発部副部長とグローバル教科主任、国際クラス担任団を含む3～5名程度の教員が事業を牽引。事務職員のうち1名をSGH担当とする等、既存の人員を活用
- 金銭** ■校外での大会、研究発表会等への交通費、海外フィールドワーク費用外部講師への謝金、等に充当
- 時間** ■中核となる教員は長時間働いたという印象があるが、他の教員もそれぞれに別の業務を抱えている状況
- 心理** ■生徒の変化が教員のモチベーションになり、教員を変化させるため、生徒が変わるように働きかけながら、その変化をとらえやすい機会を作ること意識

Plan

ツール作成の背景

- SGH指定前の国際クラス設置時（17年前）から多文化共生や国際性、課題研究活動を重視した教育を掲げていた
- SGH指定を受け、育てたい力を5S（スキル）、5M（マインドセット）と設定（設定には、大学教員や企業の採用担当などへのインタビュー調査のうえ作成）
- 探究活動や任意の校外での活動等、あらゆる学習活動の主体性のきっかけとなる、最初の一步を踏み出す機会を作りたい
（背景には、ゲーミフィケーションの理論からくるアイデアがあり、学びの場でも「楽しさ」が重要という認識）
- 教員が生徒の任意や校外での活動について、完全に把握するには限界があるという問題意識もあった（生徒が自ら積極的に教員に伝達しない限り、教員は把握できていないことを認知できない）

Do

ツールの解説

✓ グローバルパスポート

- 本校SGHの目指すべき能力である5Sと5Mの習得に向け、①本校事業への参加、②プレゼンの実施、③フィールドワークへの参加、④学外事業への参加、⑤学外大会への参加、⑥資格試験の結果等、実績を生徒に記載させる

- 実績が増える度にマイルが貯まる「ポート形式」にしており、ゲーム感覚で取り組める仕掛けに

- 対象生徒全員が目標マイルを達成し、年度を経るごとに獲得マイル数が増加。様々な活動に参加することが定着した文化に

✓ リフレクションシート

- 5Sと5Mの中で生徒自身が特に伸びを感じるスキルやマインドセットを2つ列挙させ、メタ認知を促進する教材
- 「どんな時に」伸びを感じ、「どんな障壁等を感じ」、「どんな変化が生まれたか」などを記載させ、次なるステップに進ませる

✓ Super Global Test

✓ アカデミックスキル把握用ルーブリック

- 5Sと5Mの力を46の指標に分解し、年に2回、生徒による自己評価を実施
- この5Sと5Mを基盤に作られたアカデミックスキル把握のためのルーブリックを3種策定

Check

取組内容の評価

- Super Global Testの評価では、主となる国際クラスでは、入学当初から高い平均値だが（3.8）、学年、指定年度の進行とともに、4.0-4.2近くまで伸びている。一方、一般進学クラス文系は3.4-3.7前後で留まる
- 独自カリキュラムが進学理由になった保護者の割合は、H25年度は2.5割だったのに対し、H27年度に4割、H29年度には7割まで上昇

Action

指定期間終了後のいま

- SGHのノウハウを学校全体に広げるべく、探究型学習推進委員会を新たに設置
- 多くの取組を継続しており、SSHも含め「探究の名城」という強みを持ち続けるために挑戦中
- 海外研修は行先を限定するなどして継続
- 「課題探究」等の授業内容を精選・マニュアル化
- 生徒は今年度も校外の研究大会で発表